

# こころ、元気ですか？

## こころの病の病院

こころの病が新聞やテレビなどで取り上げられることが増えるにつれ、精神科などの診療科がより身近になってきています。一方で、精神科・心療内科・神経内科などいろいろな科目があり、どの診療科を受診したらよいのか困っている方もいるのではないのでしょうか。そこで、それぞれの診療科の特徴について簡単に説明します。

**精神科**：不安・うつ・不眠・イライラ・幻聴などのこころの病やその症状、つまり、精神疾患を専門に扱う科です。精神神経科と表示されている所もあります。

**心療内科**：精神的な問題がもて体に症状をきたす病気を扱う科です。精神科だと受診しにくい方もいるため、心療内科と表示されています。実際は精神科ということもあります。

**神経内科**：脳・脊髄・神経・筋肉の病気をみる内科です。しびれやめまい、歩きにくい、ふらつく、頭痛、手足や体が勝手に動くなどの症状を扱う科です。

保健予防課では、こころの病の医療機関について案内を行うほか、保健医療マップを作成し、同課や障害者福祉課（本庁舎1階）などで配布しています。詳しくは、お尋ねください。

保健予防課 ☎227・5102

## みんなで子育て⑦

子育て支援課 ☎224・5821

### お父さんの育児参加

昔は、おじいさんやおばあさんたちなども参加していた育児。現在、核家族化や夫婦共働き世帯の増加などにより、父親の育児参加が必要不可欠となっています。ところが、平成18年の国の調査によると、日本人男性の家事・育児時間は1日平均1時間。米国やドイツの約3分の1となっています。

平成21年に市が行った調査では、父親が子育てに関わりづらい理由の約77%が「残業や通勤時間が長く、時間が取れないこと」でした。気持ちはあっても、子育ての時間が取れないというお父さんは多いようです。十分な時間は取れなくても、ちよつとした時間を見つけて少しずつ育児参加してみませんか。子どもに本を読んであげるなど、ささいなこと

からでかまいません。気負わず、出来ることから始めることが大切です。子育てに関わるうちに「育児の大変さとともに、楽しさや重要性を実感し、親としての喜びを感じるようになった」という声も聞きます。

最近では、子育てに積極的に参加する男性「イクメン」が、若いお父さんを中心に増加しています。県では、育児初心者のお父向けに育児のヒント集「イクメンの素」を作成しています。「育児も仕事と同様にマネジメントすることでやりやすくなるのでは」と、現役のお父さんたちが育児のコツについてまとめたものです。こちらは、県のホームページから確認できます。

中央公民館では、偶数月の日曜日(月1回)に「パパっこサロン」を実施し、親子で遊びながら情報交換や父親同士の交流を図ったりしています。詳しくは、同館 ☎222・1394 にお尋ねください。

## 川越まつりを十倍楽しむ方法 7

木遣りとは、本来、労働歌であり木材や石材を運搬する時に歌われた掛け声に起源があると言われています。川越まつりで鳶頭が歌うのは江戸木遣り。江戸末期から神社仏閣の上棟落慶式や町屋の棟上げ、祭礼の山車を曳く時などに歌われてきました。

川越まつりの初日の朝、山車を曳き出す際、鳶によって「真鶴」「手古」と呼ばれる拍子の木遣りが歌われ、続いて「鶴掛」や「棒車」となります。そして、「さらば」の声と拍子木の合図で山車が動き出します。

まつりの最終幕では、納めの木遣り・終い(仕舞)囃子とつづき、最後に、祭礼が無事に納まったことを祝い、町内繁栄を祈念して手締めをします。江戸の手締めは早

## きや木遣りと手締め

いリズムで3・3・3・1と手を打つ十締めが一般的で、これを3回繰り返すのがいわゆる三本締めです。伝統の川越締めは、ゆっくりとした調子で格調高く3・3・1の七つ締め。商人町の川越では十締めは「戸閉め」、店じまいに通じることから嫌われたと言われています。

川越まつり会館 ☎225-2727

### 川越まつり会館囃子実演予定

日程	囃子連名
11月	18日(日) 榎会囃子連
	23日(祝) 浦嶋囃子連
	25日(日) 今成囃子連
12月	1日(土) 南大塚囃子連
	2日(日) 幸町囃子会
	9日(日) 中台囃子連中

\*午後1時30分・2時30分の2回行います(各20分)。要入館料。